



神奈川県立鶴見支援学校
地域連携グループ・進路チーム NO. 3
令和7年10月16日発行

9月後半から一気に秋が進み、長かった夏もおわりがみえてきました。今回の「進路だより」では、夏季休業中に実施した生徒・保護者・職員向けの各見学会等の様子を掲載いたします。お読みいただき今後の参考にいただければ幸いです。

夏季保護者・生徒企業見学会

夏期休業中に、保護者・生徒対象の企業見学を実施しました。見学の目的は、実際の職場の様子を知り、今後の進路選択の参考にさせていただくことです。当日は、現場で働いている方々の姿や、企業としての取り組みを間近に見ることができ、大変有意義な時間となりました。学校だけでは得られない、貴重な学びの機会になったことと思います。ご質問をいただいた内容は以下にまとめております。ご確認ください。

1、求人倍率 令和8年度に法定雇用率が2.7%に引き上げられることもあり、各企業積極的に採用を行っています。募集人数については企業規模や法定雇用率の達成状況などによって、応募状況が変わります。日ごろから「どんな仕事に興味があるか」「どんな力を伸ばしたいか」を考えていくことが大切です。ここ数年ではスーパーなどの小売業、飲食関係、福祉関係、運送関係の求人が安定して多いです。

2、採用基準 企業ごとに異なりますが、業務内容や職場環境、人間関係とマッチングを重視しています。また本人の「働く意欲」や「自立度」が重要となります。どの企業も「技術や技能は入社してから教えることはできるが基本的な生活習慣や健康管理、挨拶や返事といったことは、家庭生活や学校生活で担ってほしい」といわれます。また人柄、働く体力があるか、時間や金銭の管理などを求められます。言葉でのやりとりができなくても自分の気持ちや意思、体調を伝える手段をもっておくことが必要です。ほかにも自力通勤や指示理解、手順通りに繰り返し作業が行えるのかも大切です。※療育手帳の等級とは別に「職業的重度判定」があり、企業の方が「重度」と称する場合には、こちらを示している場合もあります。

3、雇用期間・お給料について 一般企業・特例子会社ともに、最低賃金ベースに月給制・時給制、雇用形態（正社員・契約社員・パートなど）で給与額が決まります。そのほか交通費等の手当の支給や賞与の有無など企業によって条件は様々です。就職して1～5年の離職率は全体（業種・障害種を分けて）で3割程度といわれています。離職の理由は、人間関係や労働意欲の低下、現場実習とのギャップがあげられます。どの企業も安定して長く働けるように指導員の配置や環境設定、支援内容の工夫など努力をしていますが、その仕事や職場が本当に自分にあっていくのかをきちんと見極めていくことが大切になります。

職員事業所・企業見学会

今年度の夏季職員向け企業・事業所見学では、企業2か所と事業所5か所に伺いました。見学した企業は富士通ゼネラルハートウェアとAGC サンスマイル、事業所は希望・つづき地域活動ホームくさぶえ、しんよこはま地域活動ホーム、ナザレ工房、鶴見ワークトレーニングハウスです。

参加した職員からは、「生徒の卒後の姿を具体的にイメージできた。」や「複数の事業所を見学したことで、それぞれの雰囲気の違いを感じることができた。生徒の進路を考える上での参考にしたい。」などの感想が出ました。見学に行った際に、卒業生に会うことができた企業や事業所もあり、より具体的に生徒の卒業後をイメージする良い機会となりました。

来年度も生徒の卒業後の進路を知る機会として、実施したいと考えています。

夏季アフターフォロー

卒業後3年間を定着支援期間として、アフターフォローを実施しています。主に夏季休業期間を利用して、進路担当を中心に在学中の担任が職場や事業所に伺ったり、電話で様子を確認したりしています。

福祉事業所では、ご本人の活動の様子を見学したり、指導員さんから日頃の様子を共有していただいたりすることが多いです。今年度もそれぞれの進路先で「仕事に集中していますよ。」「落ち着いて過ごされていますよ。」「卒業時より集中する時間が伸びました。」「他の利用者さんと仲良く休憩時間過ごしています。」など嬉しい言葉をいただきました。また、卒業生の皆さんの立派に受け答えができるようになった姿や変わらない笑顔を見ることができました。

企業では、卒業生の頑張っている姿や今後の課題について共有していただいています。こうした情報は、一人ひとりがさらに成長していくために欠かせない大切な手がかりだと考えています。いただいた内容は必要に応じて個別に本人へ伝えたり、支援機関と連携したりしながら安心して長く働き続けられるようにサポートしています。昨年度に比べると、仕事にも少しずつ慣れ、表情や姿勢に自信が感じられるようになった卒業生も多く見られました。顔つきが変わり、社会人として成長している姿に頼もしさを感じます。

職業相談会

8月5日（火）、ハローワーク川崎で行われました。就労するために必要な「求職登録」の手続きをするのが主なねらいで、本校・分教室合わせて9組18人の生徒・保護者が参加しました。

まず、障害者雇用を担当する専門援助部門・就職促進指導官が、社会人になる準備というテーマで講義を行いました。「就労に向けて生活リズムを整えることが何よりも重要。社会人として必要なあいさつや返事、言葉遣いを日ごろからできるようにしてほしい」「わからないことをきちんと伝え、素直に感謝したり謝ったりできるようにすることも大切」など、就労に向け今から取り組めることをお話いただきました。「将来仕事で何か困ったとき、仕事探しをしなければいけなくなったときには、ハローワークをぜひ活用してほしい」という話を、参加者はしっかりと聞くことができていました。

講義のあとは1組ずつ窓口で、就労するために必要な手続きである求職登録を行いました。これまでの実習先で学んだことや仕事に対する希望などを聞き取っていただき、1組10分ほどで順番に手続きをしました。求職登録の待ち時間を利用して求人票検索機の使い方も学びました。興味のある求人票を検索し、プリントアウトするまでのながれを理解することができました。

高等部 事業所見学

夏休みに、高等部の保護者・生徒さんたちは、進路先選定のために事業所に見学に行っています。（保護者の方のみも可）見学は、学校に申し込みます。進路が事業所に見学日の調整をしています。この夏は80か所の事業所に連絡しました。見学に行く際は、何組か一緒の時もありますが、保護者と本人で行っています。（教員の引率はありません）時間厳守や失礼のない服装での見学をお願いしています。残念ながら何件か無断での欠席がありました。これからの進路先となる事業所です。失礼のない見学をこれからもよろしくお願いします。

学校運営協議会主催 進路学習会

8月25日（月）に開催した進路学習会には、本校保護者、近隣の小中学校の保護者・教員対象で57名の参加がありました。NPO 法人障害者雇用部会より3名、雇用部会加盟企業より10名、電機神奈川福祉センターより5名を講師にお招きし、『卒業後の進路に向けて今の段階からできること』をテーマに、基調講演・グループディスカッションの形式で実施しました。

基調講演では、「有限会社 AGC サンスマイル」相談役金澤様より、企業の取り巻く環境や身につけておきたい力など、「電機神奈川福祉センターぽこ・あ・ぽこ」主任ト部様より、就労移行支援事業所についてや「ぽこ・あ・ぽこ」の訓練についての説明がありました。

後半は、5つのグループに分かれてディスカッションを行いました。保護者から「今から取り組んでおいた方がよいこと」「求められる力」「仕事内容」「雇用形態」「社員の余暇」など多岐にわたる質問が出され、企業・事業所の方からひとつひとつ丁寧に具体的にお答えいただきました。保護者からは、「不安が解消されました」「見通しがもてました」「移行支援事業所を初めて知りました」といった感想が寄せられ、企業・事業所の方々からも「小・中学部からこういった機会をもつことはお互いにとって良いと感じた」とのお話もありました。少しでも将来に向けた不安などを解消できるような場を提供できるように、次年度以降も継続して開催の予定です。